

午前11時15分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、2番徳永秀俊議員の質問を許可します。2番徳永秀俊議員。

（2番徳永秀俊君登壇）

○2番（徳永秀俊君） 皆さん、こんにちは。私は、公明党の徳永秀俊でございます。議員にならせていただきましてやっと5カ月がなろうかとしているところでございますが、朝倉市発展のために一生懸命議員活動をさせていただいております。朝倉市の皆様、今後ともよろしく御指導をお願いいたします。

本日は、第2次朝倉市総合計画に基づきまして質問をさせていただきます。この総合計画は、余り立派なものでしたからコンサルタントを入れてつくられたんですかとかう聞きましたところ、大変失礼だと思いましたが、市の職員の方が一生懸命手づくりでつくりましたと、こういう返答が返ってまいりました。大変な御苦労が見えない部分であったんだろうと、このように推察いたしました。また、ここに書かれてあることが本当に実現をすれば、10年先はもとよりその先まで希望あふれる朝倉市が実現できるものと思えました。きょう、私はこの朝倉市総合計画に基づき4つのことを質問をさせていただきます。

1つ目は観光振興についてでございます。そして、2つ目が企業誘致についてでございます。そして、3つ目は子育て世代の定住・移住促進についてです。最後に、4つ目は空家の有効利用の取り組みについてであります。

これより先は質問席に戻りまして質問をさせていただきます。執行部の皆様、よろしくをお願いいたします。

（2番徳永秀俊君降壇）

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） 現在の朝倉市の観光振興について。

現在、朝倉市は災害復旧に全力を傾け、市長を先頭に執行部の皆さん、職員の皆さん、そして市民の皆さんが一丸となって頑張っておられる状況であります。その中にありまして、もう一つのどうしてもやらなければならないことは、人口減少問題と朝倉市の地力を上げるべく観光促進、そして企業誘致に力を入れることだと思います。そのことを前提に質問をさせていただきます。

第2次朝倉市総合計画の巻頭言には、市長は災害からの復旧・復興や地方創生の推進を横断的に取り組む重点分野として位置づけられており、施策のくくりにとらわれずに連携して進めてまいりますと宣言をさせていただいておりますが、これは復旧・復興を得て、被災前よりも全ての世代に元気と笑顔があふれ、再び輝く朝倉市を取り戻すためには必要とあらば横断的に組織の枠を超えて取り組んでいく決意であると、ある面私は理解をしています。再確認のために、林市長の思いを伺いたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 第2次総合計画の巻頭言ということでございます。

現在の朝倉市、そして5年先、10年先を見据えたときに、総合計画の中で、まずは災害からの復旧と復興ということでございます。そして、現在、その他の課題も非常に複雑で多様化をしているという現状がございます。こういったことを踏まえまして、今、議員から言われましたように組織横断的ということでもあります。まさしく、我々複数の部署、そしてまた職員の知恵、こういったものを結集をいたしまして事に当たる必要があるというふうに考えております。

特に優先すべきは災害からの復旧・復興であり、地方創生の推進でありますので、第2次総合計画の巻頭言ではそこに焦点を絞って述べておるところであります。組織横断的に取り組んだほうが効果が上がると考えられる課題解決、そしてまた積極的にそうすべきであるというふうに捉えられるものについては、これから先、議員からお話があつておりますように、縦割りではなくて組織横断的に柔軟に行政対応をやっていくということでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。若輩の私がおこがましく思いましたけれども、市長の発言を伺いまして勇氣100倍でございます。どうもありがとうございます。

次に、第2次朝倉市総合計画の14ページの基本構想の中の朝倉市の将来都市像の中にはこのようにうたっております。古くから豊かな自然とそこに暮らす人々によって生まれた豊富で良質な水を生かし、大切にし、水とともに朝倉市は発展してきた歴史があります。その水に加え、朝倉市には恵まれた豊かな自然環境、美しい景観、地域に根づく多種多様な歴史、文化といった多彩な魅力があります。それらを磨き、組み合わせ、より一層輝くまちの姿に、朝倉市に住む人、訪れる人が心地よさや安らぎを感じ、住み続けたい、住んでみたいと思うまちを目指しますと、このようにうたっております。

また、基本目標の5番には、豊かな地域資源を生かした産業、観光の振興には、課題として、朝倉市の観光資源である歴史、自然、文化財の魅力をさらに磨き上げ、誘客につなげる必要がありますと、このようにあります。

そのことを受けまして、さて5月に行われました古賀百工翁生誕三百周年記念として、山田井堰の講演会を聞かせていただきました。日本から遠く離れたアフガニスタンでペシヤワール会の中村哲医師を中心としたかんがい事業で、クナール川から試行錯誤の末、山田井堰にヒントを得、同じ方式で取水をし、砂漠を農地に変え、今では60万人もの人々が生活できるようになったそうであります。230年前のこの山田井堰の築造技術が現代に再現し、人々の生活を潤している、すごいことだと思います。朝倉にも、世界に誇れる文化遺産や、今でもちゃんと動いておりますので遺産ではございませんが、すばらしい宝がた

くさん眠っており、これを磨き、観光資源として活用すれば、必ずや朝倉の輝ける未来の一翼を担ってくれるようになると思いますので、その点から質問をさせていただきます。

朝倉には、3つのダム、3つの高速インター、道の駅、そして三連水車のある直売所、来年度開通予定の（仮称）八丁トンネル、また原鶴温泉、秋月の博物館や、斉明天皇や中大兄皇子の小倉百人一首の第1番目の歌の橘広庭、先ほど紹介した古賀百工翁の山田井堰、三連水車など、たくさんの歴史的な見どころがあります。

一方、朝倉市を観光で訪れる人は年間に300万人だそうです。この数字が多いのかどうかはよくわかりませんが、今現在、博多港にはクルーズ船に乗ってやってくる外国人観光客は年間に250万人だそうです。この人たちがぜひ行ってみたいと思わせ、受け入れ態勢をつくれば、たくさんの方々がこの朝倉に来ていただければ、大きな経済効果が得られると思います。仮に100万人の外国人観光客が来て1,000円ずつ使ってくれただけで10億円だそうです。

また、朝倉は災害によっても全国的に名前を知られるところとなりました。そんな朝倉が自力再生の道を頑張っている、その姿を観光の力を高めることにより全国の皆さんに知ってもらいたいチャンスだと思います。

そんな思いを胸に、私はさっそくあの感動の講演で再確認した山田井堰の現地に行きまして現状を確認をしてまいりました。また、この山田井堰に関係している方や、ここに来られた方に、山田井堰の御意見を伺いました。一番多かったのが、ここにはガイドもないしトイレもないねということでした。私も現地に行きまして思ったのは、これでは観光客が当然来ていただけないだろうとそう思いました。

まず、おトイレがないんです。人はきれいなトイレに行きたがるものです。50代以降の人たちはトイレが近い人も多いと思います。バスであそこに寄ろうとは思わないと思います。その昔、私はトイレメーカーに勤めておりました。その関係上、トイレが大好きでございます。それも清潔なトイレ、高価でなくても清潔にぴかぴかに磨かれたトイレには、人を引きつける力があると思います。卑近な例では、コンビニのトイレがそうです。いかに品ぞろえがよくても、汚いトイレの店には行きたくないのが人間です。山田堰にも思い切ってトイレを設置したらいかがでしょうか。少なくとも、そこに停車する観光客は今よりもぐんとふえると思います。

そして、三連水車もいま一つ寂しさを感じます。ここにも脇役になるような何かが必要だと思います。また、これからは外国人観光客にも来てもらえるように力を入れていかねばならないと思います。

そこで、質問でございます。観光の力を高めるためにはたくさんのやらなければならないことがあると思いますが、まずは山田井堰のトイレ設置工事、この御検討はお願いできませんでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 今、議員御質問のとおり山田堰につきましては、それにつきましては堀川用水や三連水車などの水車群とともに平成26年9月、世界かんがい施設遺産に登録されております。また、ペシャワール会の中村哲医師がアフガニスタンの農村復興事業の際にかんがい施設のモデルとされたことからマスコミなどで取り上げられる機会がふえ、近年、国内外の観光客が増加しているところでもございます。

山田堰周辺の公衆トイレといたしましては、200メートルほど離れておりますが、木の丸公園内に1カ所設置しております。また、大型バスなどが駐車できる場所としましては、山田堰から約1.2キロメートル、自家用車でいいますと2分のところに三連水車の里あさくらがあり、トイレが利用できます。市としましては、山田堰見学の際は、三連水車の里あさくらにお立ち寄りいただいてトイレを済ませてから現地に向かわれるようこれからも促していきたいと考えてはおります。

また、三連水車の里あさくらには、山田堰や三連水車を見学される観光客用に展示コーナーがあります。昨年度末には駐車場内に新たに屋外トイレを増設しております。そのため、大人数の御利用にも対応できるようになっております。

さらに、三連水車の里あさくらに立ち寄っていただくことで、朝倉市の特産品などをお買い求めいただくきっかけともなり、経済効果の面から見ても有効であると考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

私は、山田井堰というのが、本当に筑後川から取水しましたこの原点の地であるというのを重く見まして、あそこにやっぱり、ガイドの方もおっしゃってあったんですが、どうしてもそこで説明をしたいと、現地で、しかしながらトイレがないんですと、非常に困っていますと、もう再三おっしゃったんです。私も、本当に朝倉を観光によって盛り上げるならば、そういったもうちょっともう一步突っ込んでぜひ検討をお願いしたいと思っていますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 先ほど答弁させていただきましたとおり、近くの公園に1カ所ございますし、またその近く、1.2キロではございますけども三連水車の里あさくらのほうがございますので、そちらのほうでの御利用を促してまいりたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。

私も現地を確認しまして、くみ取りのトイレがちょっと小高いところにあるんです。しかしながら、本当にもう誰も使いたくないようなおトイレでございました。ぜひ、一度見ていただいて、一步前進の、ぜひお願いしたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 答弁は要りますか。

農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 今御質問のとおり、木の丸公園のほう、一度見させていただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。ぜひとも、よろしくお願いいたします。

また、続きまして、来ていただく観光客に喜んでいただくには、朝倉でしか味わえない温泉や四季のフルーツや緑豊かな自然、そして秋月の町並みや秋月の博物館の見学をお弁当つき、卑弥呼の湯の温泉入浴つき、バスハイクパックなどを1,500円くらいで御提供したらいかがでしょうか。もちろん、これは私の参考でございますからもっと独自性があったほうがよいと思うのですが。

いずれにいたしましても、20年後の2040年を迎えるに当たり失敗を恐れず何かをやり続けることが大事だと思いますが、こういった点はいかがでございましょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 今御質問の中で、バスハイクのパック等ということがございますけども、このバスハイクツアー等の実施につきましては、当市が福岡県広域地域振興課や筑前町、東峰村と実施しております広域連携プロジェクト事業におきまして平成29年度よりモニターツアーを隔年3回実施しております。その結果に基づき、観光素材などを各旅行者に提供いたしております。

また、今年度におきましては、旅行会社との連携により水をテーマとして山田堰や寺内ダムをめぐるバスツアーが6月末に実施され、山口県、大分県から約160名の方々にお越しをいただいているところでございます。

これらのバスツアー企画などにつきましては、旅行会社などへ継続して働きかけを行っていきたいと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

次に、例えば朝倉市に縦割り行政の弱点を補うような横断的に対応できる風通しのよい担当課を設けたら、もっとスムーズに新しいものを受け入れる形にすることができるかもしれないと思いますが、こういう考えはいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 冒頭に市長のほうから巻頭言の中で、横断的にあるいは課を飛び越してということで力強い発言をしていただきました。まさに、第2次総合計画の中の今回成し遂げようとする思いでございます。

議員が言われますように、そういったふうな弱点をかばい合うと、恐らく風通しのいいという表現がございましたが、そこあたりについては、今組織再編とか、もしくはそうい

ったふうなところに特化するものでなくて、通常いろんな業務があるときにつきましては、市長部局あるいは教育部局、いろんなプロジェクトという形の中で内部の中で担当職員を集めながらそれに邁進する姿をとっておりますので、まずはその体制で今後も進めてまいりますので、案件に応じて対応していくように考えております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございました。ぜひ、前向きの御検討をよろしくお願いいたします。

続きまして、総合計画の施策15に企業誘致を積極的に推進していく旨が重点施策としてうたっていますが、受け皿である企業向けの土地は現在何カ所、何平米くらい、企業誘致できる土地がありますか。

また、ここ3年間で誘致した企業はどのくらいでしょうか。

また、今後計画的にどのくらい誘致しようという計画でしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） まず、1つ目の御質問、企業向けの誘致できる土地でございますけれども、今現在誘致できる土地につきましては林田工業団地の1カ所のみで、約7,700平米でございます。

ただし、現在は平成29年発災の災害の土砂置き場として今は利用いたしております。

2点目の過去3年間で誘致をした企業は何社かということでございますが、こちらにつきましては2社となっております。ただ、誘致いたしました企業は2社でございますが、それ以外にも市内の事業所で敷地の拡張また移転などの対応をした企業は4社ございます。

今後計画的にどのくらい誘致をしようかということでございますけれども、先ほど申しましたとおり市が保有し企業向けに誘致できる土地は林田工業団地の1カ所のみでございます。

ただ、そのような中で、市内の民間適地を先行して見出し、適地情報を市の内外に発信し、現在企業誘致を進めている状況でございます。

ただし、朝倉公共職業安定所では求人数が4,577人、求職者数1,351人と有効求人倍率は3.39倍となっております。朝倉公共職業安定所に登録されている事業所では人手が不足している状況が読み取れます。あわせて、近隣に大型企業の進出が予定されていることで、既存の市内企業では今後より一層従業員の確保が困難になることや、大型企業へ従業員が流出するのではとの懸念もいたしております。そこを含めまして、市内事業所の雇用状況を総合的に勘案しながら企業誘致を進めていく必要があると考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。

今現在は本当に人が足りない状況だと思うんです。ですけれども、これ5年先とか、例えば10年先とか、そういったところを見据えていただいて、本当にこの朝倉市に雇用を生ん

でいくと、そういったものをしっかりとつくっていく必要があるんじゃないかなと思っておりますので、ぜひとも前向きによろしくお願いいたします。

次に質問させていただきます。これは、もう参考でございますが、私の住んでいる牛鶴の近くに十文字、朝倉農業高校の跡地がございます。これは、平成28年に公園にすると決定をしているのですが、平成29年に豪雨災害が起き、朝倉市の状況はもう一変いたしました。国の補助や決定した経緯があるかと思いますが、60億円をかけて公園にするよりも、もう一度再検討していただいて、朝倉の環境に優しい理解ある企業に誘致をし、重点施策である企業誘致の推進をし、新たな本市の税収のアップ、若い方が朝倉市内で働ける場を生み出したほうが有効活用ではないかなと思いますが、この点はいかがでございましょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 企業誘致等の雇用に関する分については、先ほど農林商工部のほうの回答によります。

徳永議員が言われます朝農跡地の十文字公園整備についてという話の中でございます。

このことにつきましては、さかのぼること平成21年に市民の意見を反映された朝倉農業高等学校跡地活用計画を作成しております。その後、跡地活用基本計画、公園基本設計等を策定し、食と農と健康が集うふるさとの公園をコンセプトに、市民交流や活動の場としてだけではなく、災害時に防災機能を備えた公園として活用できるよう事業計画となっていたところでございます。

都市計画公園の決定及び事業認可を受け、平成28年度より国の交付金を受け事業を進めてまいりました。現在は、御存じのように事業凍結を行っておりますが、凍結解除後の計画におきましても、現時点では公園として整備を進めていくことを考えておりますので、御理解方、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございました。

いずれにいたしましても、企業誘致は重点施策として上げていただいておりますので、ぜひとも積極的な取り組みをお願いしたいと思います。

続きまして、先ほどの企業誘致とセットの感がございますが、子育て世代の方々が家を建てたい、市内、市外の方々を対象に土地を廉価で販売または貸し付けをし、朝倉市内に定住していただくことを目的とした施策を打ち出してはいかがでしょうか。全国的にも少子高齢化と人口減少が進む中、本市もその例外ではありません。子育て世代に選ばれるまち、住み続けたいまちを目指し、人口減少に歯どめをかけ、定住人口の増加を図ることを重要課題の一つとして、ここで思い切って市が主導で子育て世代向けに宅地貸し付けをやってみてはいかがでしょうか。よい点、悪い点があるのも事実ですが、旧杷木町が平成9年に宅地貸し付けをしたときは、抽せんで坪当たり毎月200円を15年間払い続ければ自

分の土地になるとの施策で20区画造成し、大好評だったそうであります。

また、子育て世代の定義を決めて市内の賃貸住宅にお住まいの子育て世代の方対象に家賃補助をしてあげるとか、新たによその市町村から移住してこられた子育て世代の方には引っ越し費用補助の特典を用意するとか、子育て世代の方々がどうせ住むなら朝倉市がいいと言っていたける機運を盛り上げる施策が必要だと思いますが、この点はいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 子育て世代に限定したという事業ではございませんが、朝倉市民もしくは朝倉市民になる方を対象とした住宅支援事業、これを都市計画課で行っておりますので紹介をさせていただきたいと思います。

3つ紹介を申し上げます。

まず、1つ目はリフォーム補助でございます。住宅リフォーム補助を行っております。市民が快適に住み続けられる住環境の向上、それから地域経済の活性化、これも考えておりますし、定住促進ということで住み続けていただくということで、親と子と孫と一緒に暮らせるふるさとづくり、こういったことを目的に補助事業を行っているところでございます。ちなみに、補助率については10%で、上限を30万円としております。

2つ目でございますが、朝倉市の住宅補助として、転入者、定住を促進する事業として、市内に居住予定の方、その方を対象にして、市内の業者に発注するもしくは市内の業者から購入すると、そういった限定ではございますが、住宅の新築それから住宅の購入、こういったことについて補助をするということをやっております。補助率は5%で、上限を100万円としておるところでございます。

それから、もう一つ、最後でございますが、言葉的にちょっと珍しいんですけども、住宅確保要配慮者向け賃貸住宅供給促進事業というのがございます。これは、空家を活用いたします。空家の所有者に対しまして、この要支援者というのが、私どもの定義で高齢者それから障害者、被災者、そして子育て世代、こういった方々を対象に、こういった住宅の確保が必要な、支援が必要な方に対して空家を賃貸住宅化する、その支援が必要な方専用に賃貸住宅化するために必要な改修費、こういったものを補助いたします。建物、古いもの、新しいものがございますので、古いものについては耐震改修工事が必要だったり、いろんな共同住宅への用途の変更だとか、いろんな間取りの変更だとか、そういったものがございます。そういった大きな工事をやる場合については1戸当たり200万円、そういった耐震改修工事とかそういったものはない一般的な工事の場合は上限が100万円というようなことではございますが、そういった制度を今既に実施をして定住促進については力を入れていっているところでございます。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。この100万円の補助と200万円の

補助というのは、私も勉強不足で知りませんでした。大変いいことだと思います。

続きまして、空家に関しまして質問をいたします。

現在、朝倉市の空家はどのくらいあり、どのように生かされておりますでしょうか。また、今後の対策があれば教えていただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 空家の戸数ということでお答えをしたいと思います。

ただ、これ、空家の実態調査自体を現在やれておりませんで、これから申し上げますものにつきましては国と一緒にやっております住宅・土地統計調査、この数字から申し述べます。

直近では、平成25年の数字が公開になっておりますが、その時点で2万2,310戸のうち空家は2,890戸ということになっております。空家率としては12.9%でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 2番。

○2番（徳永秀俊君） 先ほどの補助金の件も伺いましたので、わかりました。

私のほうの御提案でございますが、現在、農水省を初め国の方針といたしまして、全国的な空家対策として年間500億円の予算を投じておるそうでございます。皆様も御承知のように、住めなくなった空家は解体除去するしかなく、また持ち主もわからない場合もある。いわば厄介者であります。建物には、昭和56年以後に建てられたものと以前に建てられたものがございまして、この中で昭和56年以前の中で観光に使える伝統的建築物である古民家がございまして。この空家をうまく活用すると同時に地域のよさを農業体験や朝倉の自然を満喫していただくことによって観光資源にもなり、地域創生にも寄与するものではないかと考えております。

参考ではございますが、お隣のうきは市では、実際に全国ネットであります民間の一般社団法人福岡県中央古民家再生協会と行政とが空き家等古民家の活用に関する包括連携協定を締結し、移住定住の促進や地域活性化を目的として、民間の力を大いに利用をしております。

事例といたしまして、道の駅うきはの隣に古民家を改造して民泊ができ、10割そばが食べれるお店をオープン。昨年は8,000人以上の方が来店があったそうであります。そのうち145名は宿泊をされたそうです。また、ことしは140%増の来店数だそうです。うきは市内では、このような交流拠点をさらに多く手がけているようです。

近郊の市町村を調べてみましたが、八女市がことしからこの方式を取り入れるそうでございます。また、久留米市、小郡市も行政が前向きに取り組みを検討していると伺っております。

観光客の往来が今後ますます加速していくと思います。朝倉市や周りの広域全体での機運を高めていくためにも、ぜひとも本市もより多くの民間の活力を利用した古民家再生に力を入れていただきたいと思います。この点はいかがでございましょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 古民家の再生それから有効活用ということでは、いろんな考え方とかアイデアがあると思っております。まずは、文化財保護あるいは学術的な観点から教育委員会のほうから答弁をさせていただきます。

歴史的価値とか学術的価値が高い建築物は、これは文化財に指定をしまして保存公開することで、市民の文化教育の向上に役立てるということができます。実際に、市では武家屋敷でございます旧田代家住宅それからくど造りの形態を残している朝倉の旧石井家住宅など、学術的価値が高い建物を文化財に指定しまして保存活用をいたしております。

しかしながら、過去の調査実績とか地域からのお申し出などを考慮いたしますと、市内にある空家の中に文化財指定に値する物件が存在する可能性は低いというふうに思われます。空家を地域創生のための地域資源として活用することはいいアイデアだと思いますが、文化財としての活用については存在する可能性が低いことや、仮に存在した場合においてもその維持管理に多額の費用が見込まれるといったことから慎重に検討する必要があると思っております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 2 番。

○2 番（徳永秀俊君） どうもありがとうございました。学術的な部分ですと、もうワンランク上の話かなと今思いましたが、今後ともぜひ古民家、空家の有効活用のほうをよろしく願いしたいと思えます。

10年後、20年後、そして30年後の輝ける朝倉市のためにも今からお願いしたいのであります。

以上をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（堀尾俊浩君） 2 番徳永秀俊議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後 1 時より再開いたします。

午前11時55分休憩